

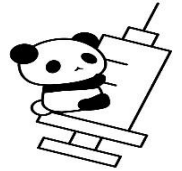


熱中症が心配な季節になりました。身体が暑さに慣れていない梅雨明けや、急激に気温の上がった日は特に注意が必要です。水分補給や体調管理に気をつけ暑さに負けない身体づくりを心がけましょう。今月号では、厚生労働省よりお知らせのあった「予防接種と乳幼児健診」についてと、仙台市の衛生マニュアルより「プール等を使用しての水遊びを見合わせる場合」をお伝えいたします。

遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診

なぜ、予防接種や乳幼児健診を遅らせない方がよいの？

- ・ 予防接種のタイミングは、感染症にかかりやすい年齢などをもとに決められています。
- ・ 特に、生後2か月から予防接種を受け始めることは、お母さんからもらった免疫が減っていくときに、赤ちゃんがかかりやすい感染症(百日せき、細菌 性髄膜炎など)から赤ちゃんを守るために、とても大切です。
- ・ 乳幼児健診は、子どもの健康状態を定期的に確認し、相談する大切な機会です。適切な時期にきちんと乳幼児健診を受け、育児で分からないことがあれば、遠慮せずに医師、保健師、助産師などに相談しましょう。



予防接種や乳幼児健診に赤ちゃんを連れて行っても大丈夫？

- ・ 医療機関や健診会場では接種を行う時間や場所に配慮し、換気や消毒を行うなど、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に努めています。
- ・ 予防接種はできるだけ事前に予約しましょう。一般の受診患者と別の時間や場所で受けられる医療機関もあります。
- ・ 受診の前には、体温を測定するなど、体調に問題がないことを確認してください(※) 家に帰ったら、赤ちゃん、保護者とも、手洗いなどの感染対策をしっかりとしましょう。また、予防接種を受けた日もお風呂に入れます。

※体調が悪いときは、感染症を周りの人に感染させるおそれがあるので、予防接種や乳幼児健診に行くことはやめましょう。元気になったら、あらためて予定を立ててください。



新型コロナの流行で予防接種を受けそびれました。どうすればいい？

- ・ 受けそびれてしまった場合は、できるだけ早く受けましょう。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行後に、外出自粛要請などの影響で予防接種を受けられなかった場合には、地域の事情に応じ、規定の接種期間を過ぎても接種できる場合があります。お住まいの市区町村にお問い合わせください。
- ・ 子どもの予防接種は、決して「不要不急」ではありません。まだ接種期間内の方は、お早めに接種をおすすめください。

ご不明の点は、かかりつけ医や、お住まいの市区町村にご相談ください



プール等を使用しての水遊びを見合わせる場合

- ・ 下痢、腹痛、発熱等の症状がある場合
- ・ 流行性角結膜炎（はやり目）、咽頭結膜炎（プール熱）等の感染症にかかっている子ども
- ・ 伝染性膿痂疹（とびひ）、伝染性軟属腫（ミズイボ）、アタマジラミ等感染のおそれがある皮膚疾患で、医師の指示があるもの
- ・ その他、保護者や保育者がみて使用を控えたほうが良いと判断した子ども

「保育所における衛生管理マニュアル 仙台市子ども未来局 幼稚園・保育部 運営支援課」より抜粋